

平成 26 年 2 月 28 日

2014 年度野球規則改正・規則適用上の解釈と要点解説

日本高等学校野球連盟
審判規則委員会

注：()内数字は今回改正された 14 項目の符号

- (1) 1. 15 冒頭の「投手のグラブ」を「投手を含む野手のグラブ」に改め、……。高校野球では用具の使用制限 12 の記載通りとする。
- (2) 商標、マーク類の特例を認める場合の条文追加である。
- (3) 2. 40「原注」に、インフィールドフライが宣告されたときに、走者が野手を妨害した場合の扱いが追加された。
打球がフェア・ファウルか確定するまでインプレイの状態が続き、フェアの場合は、インフィールドフライで打者アウト、走者は守備妨害でアウトが宣告される。一方、ファウルボールの場合は、インフィールドフライとはならず、捕球前に宣告された守備妨害で走者がアウトになる。(捕球したかどうかは問わない)ファウルボールを打った打者を一塁へ行かせるわけにはいかないで、カウントして打ち直しとなる。
- (4) この条文と、「補則・ボールデッドの際の走者の帰塁に関する処置(再録)」(A)(f)を参照してください。
- (5) 妨害があってもプレイが続けられるケースもあることから削除となった。
7. 09 末尾のインターフェアに対するペナルティの字句も削除することが検討されたが、現行通り。
- (6) 3. 05(d)の末尾に追加文がなされた。
高校野球では平成 25 年 7 月 1 日通達のとおり、規則 3. 05(d)は適用除外としている。
- (7) (8) (9)
- (10) 事象の表現として、原文どおり「明らかに」が挿入された。
- (11) 高校野球は高校野球特別規則⑩を適用します。
- (12) (13) 8. 05(b)および同【注】の改正はすでに通達等でもお知らせしていますが、プレーヤーにご理解いただけるようご指導ください。
「投手板に触れている投手が、一塁または三塁へ偽投すればボークとなる。」
また、8. 05(c)【原注】は、上記の改正に伴い、簡潔に整理されました。
なお、二塁への偽投は許されているので満塁のケースなどで二塁へ偽投後、三塁または一塁への送球もあり得るので注意して下さい。
- (14)

※「連絡事項」規則 3. 17 適用に関連する、ファウルゾーンでのキャッチボール禁止について審議されたが、プロ・アマ共に従来通り運用することで可決された。

以上